

## 【主題】 発達支持的生徒指導の具体的実践についての研究

### 【副題】 互いを認めて褒めて感謝する「美点凝視」の活動を題材に

【学校・団体名】 奈良市立若草中学校

【役職名・氏名】 教諭 栗山泰幸

#### 1 はじめに

本校は戦国時代の武将、松永久秀が築城した多聞城跡に建ち、校舎からは東大寺や春日大社など、奈良の世界遺産を眺めることができる。四季の移り変わりとともに、美しい光景を味わうことができる贅沢な立地の中、優しく真面目な生徒たちが日々懸命に学び合っている。

特に本校生徒は、厳しい生活実態の中に暮らす生徒も少なくない中、さらに暮らしにさまざまな制限をかけることになったこれまでのコロナ禍生活を、子どもたちはくじけることなく、副題に示した取り組みを生徒主体で行ってきた。そのような、本校生徒一人ひとりのことを、筆者は心から誇りに思う。

#### 2 現状と課題

本校の課題としてこれまで、生徒間の人間関係を調整する能力や、問題を解決しようと粘り強く取り組む力に課題が見られ、単純な考え方のちがいや人間関係上の些細な対立が大きな問題に発展するといったことが散見されていた。その一方、全国学力学習状況調査の「自分には良いところがあると思いますか」という質問項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合が、奈良県全体の割合よりも低く、70%を下回り、自分に自信や責任を持って判断・行動できるかどうかという点に大きな課題が見られていた。

また、学校組織全体で教職員や関係機関が連携しながら、生徒指導に取り組もうとしてきた結果、細かな方針や要領を気にしすぎたり、一部の困難な課題にばかり対応を迫られたりして、肝心の生徒が主体者として成長できているかどうかという本来の生徒指導の目的を見失いかけているという点が反省点として挙げられていた。

そこで2019年4月に本校のミドルリーダーとして、生徒指導主事を拝命した筆者は、「生徒の自尊感情と主体性の向上」を生徒指導の目標に掲げ、細かな規則や要領にとらわれず、生徒たち一人ひとりが、心身ともに健やかに成長していけるよう、学校全体で生徒一人

ひとりの成長とともに認め合い、称え合っていくということを生徒指導部の方針として定めた。

折しも文部科学省は、2022年12月に生徒指導提要进行を改正し、生徒指導の目的は児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることとした。さらには、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)等を踏まえ、目前の問題に対応するといった課題解決的な指導だけではなく、「成長を促す指導」等の「積極的な生徒指導」を充実させることが強調され、全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導という概念が明示された。

本稿では、この発達支持的生徒指導の具体的実践について、勤務校で筆者が生徒指導主事を務めた2019年度から2022年度までの生徒指導部4年間の取り組みの中から、互いを認めて褒めて感謝する「美点凝視」の活動を一つの題材として考察していく。

#### 3 発達支持的生徒指導の具体的実践

##### (1) 発達支持的生徒指導とは

発達支持的生徒指導は、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。発達支持的というのは、児童生徒に向き合う際の基本的な立ち位置を示しています。すなわち、あくまでも児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、その発達の過程を学校や教職員がいかに支えていくかという視点に立っています。すなわち、教職員は、児童生徒の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」ように働きかけます。発達支持的生徒指導では、日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通した個と集団への働きかけが大切にな

ります。(文部科学省、2022)

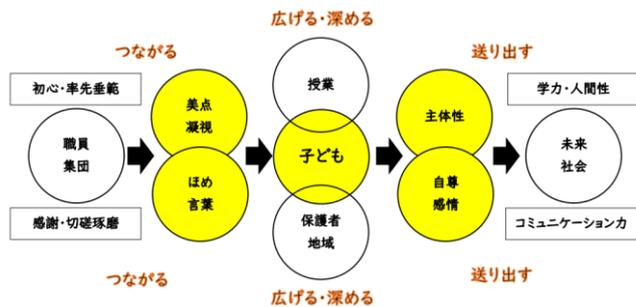
## (2) 本校生徒指導のグランドデザイン

本来、改正前の生徒指導提要(文部科学省、2010年)においても、問題行動など目前の問題に対応するといった課題解決的な指導だけでなく、成長を促す指導や予防的な指導を改めて認識することで、問題行動の発生を未然に防止し、全ての児童生徒が自ら現在や将来における自己実現を図っていくための能力の育成を目指し、学校におけるあらゆる場面を通じて積極的に生徒指導を行っていくことが重要だとされてきた。

また、石隈(1999)によれば、心理教育的援助サービスとは、一人一人の児童生徒の学習面、心理・社会面、進路面及び健康面における問題状況の解決を援助し、児童生徒の成長を促進することを旨とするものとされている。

そこで筆者は、生徒指導主事着任1年目(2019年)にまず本校生徒指導のグランドデザイン(展望図と指導・支援の重点)を、以下のように子どもを主体者として描き、新しい生徒指導体制をスタートした。

### 【展望図】



### 【指導・支援の重点】

- ・子どもの主体性と自尊感情を育む集団作り
- ・確かな学力と社会性を育む、生徒主体の授業作り
- ・温かく丁寧で公正な保護者や地域の方々との関わり
- ・互いの特性や経験を認め合い、高め合える職員集団
- ・「美点凝視」と「ほめ言葉」を土台とした関係作り

### 【実践研究仮説】

学校全体で生徒一人ひとりの成長をともに認め合い、称え合うという、明るく前向きな生徒指導(発達支持的生徒指導)に取り組めば、生徒の自尊感情と主体性が向上し、問題行動も減少するであろう。

## (3) 「美点凝視」の活動

### 承認と称賛の学校風土づくりと解決志向

本稿で題材とする「美点凝視」の活動とは、子どもたち一人ひとりのよさや努力している点を凝視して、それに対する温かい承認と称賛の言葉を送り合うという活動である。(この活動は、前大分県教育庁大分教育事務所長で現大分県玖珠町立くす星翔中学校校長の山香昭氏の実践を筆者が許可を得てアレンジしたもの)

筆者が生徒指導主事として、第一にこの活動に取り組もうと考えた理由は、子どもたちが互いの個性やよさを認め合って、承認や称賛のメッセージを送り合っ温かな学校風土を作ることこそが、子どもたちの信頼関係や心理的安全性を高め、自尊感情や主体性の向上に寄与すると考えたからである。実際に、公益社団法人子どもの発達科学研究所によれば、学校風土が良いことは、児童生徒の行動上の問題の改善だけでなく、学業成績の向上にとっても、最も重要な要因の1つであることがわかっているとされている。

また、米国の精神科医エリック・バーン(1950年代半ば)の交流分析理論によれば、人はストローク(他者の存在を認識する全ての行為)の中で成長していくとされる。そのストロークの中でも最も重要だとされているものが、目を合わせるとか、笑顔で挨拶をするといった無条件の肯定的ストロークである。さらに、米国で開発されたブリーフセラピー(短期心理療法)の1つである解決志向アプローチでは、クライアントの問題やその原因、改善すべき点を追求するのではなく、クライアント自身がすでに持っている資源(能力、強さ、可能性等)に焦点を当て、コンプリメント(労い・承認・称賛)することが重要だとされている。

発達支持的生徒指導の具体的実践として先行的に取り組んできたこの美点凝視の活動を簡潔にまとめると、この活動は解決志向の観点にたつて、無条件の肯定的ストロークを学校教育活動の中に連鎖的に生み出し、承認と称賛の学校風土づくりをめざした活動であるといえる。

### 学校風土の可視化

勤務校ではそれまでも、毎日の終わりの会でクラスメイトの努力していた姿に対して称賛の言葉を送ったり、感謝の思いを互いに伝え合ったりするといった取り組みが行われていた。しかし、それらはそれぞれの学級の中だけで行われており、学校全体にそういった

承認と称賛のメッセージを送り合うといった風土が可視化されて広がってはいるとはいえる状況ではなかった。

そこで、筆者は生徒指導部だよりの発行や全校集会などの機会を通して、笑顔や拍手といった非言語メッセージによる無条件の肯定的ストロークの効果について教職員や全校生徒に伝えた上で、学級活動のみならず各教科の授業においても、生徒が主体的・対話的に学び合える授業づくりをそれぞれに心がけ、授業の中で生徒同士が互いに成長できたことや学びあったことについて、笑顔と拍手で承認と称賛のメッセージを伝え合う活動を広めていった。

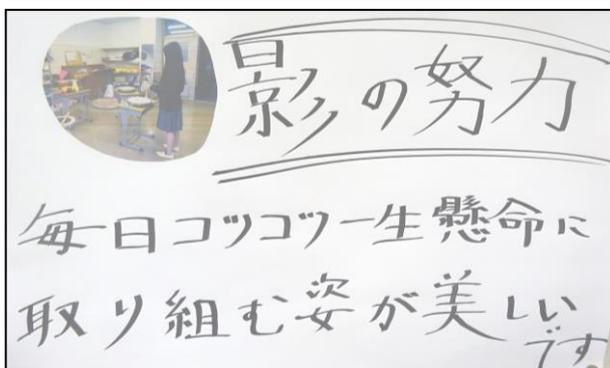
### 【1年生の教科授業ふり返りより（一部引用）】

班を作って協力して、都道府県と県庁所在地などを覚える練習をしたりしていると、人と一緒に勉強をすることが楽しくなって、それが頑張るもとになってきました。班で振り返りをするとき、頼られるのが好きで、予習をするようになり、人の意見を聞くのも楽しくなって、社会が大好きになっていきました。そこで、なぜこんな頑張れるのだろうと考えると、人と協力するのが楽しかったり、意見を交換するのが楽しかったり、一人じゃできないことがあるから頑張れるんじゃないかなと思いました。プレゼンのときは班の人に助けってもらったりして、授業では意見を出してもらったりして、人と協力しているからこそ、楽しく授業を受けられるのだと、大事なことを知れました。最後にそのことを気づかせてくれた1年3組のみんなと先生に感謝しています。ありがとうございます。

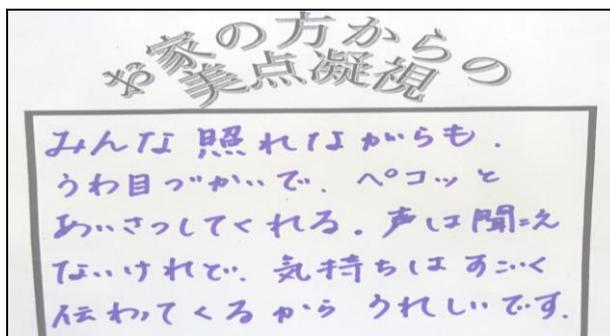
また筆者は、生徒の個性やよさが発揮されている様子を校務用のデジタルカメラやタブレットで写真撮影し、そこに承認や称賛のメッセージを添えたカードをポスターサイズに大型印刷して校内に掲示し、承認と称賛の学校風土を可視化していった。この承認と称賛の美点凝視ポスターは、筆者の生徒指導主事着任1年目に当たる2019年度の間は、筆者が一人で作成し、掲示していたに過ぎなかったが、活動2年目の2020年度からは生徒の中からもこれを作成したいという声が始まるようになり、生徒会が主体となって、この美点凝視ポスターを作成するようになっていった。さらに3年目の2021年度以降には保護者懇談会の中でも、この美点凝視ポスターに取り組まれる方が生まれ、校内はあっという間に美点凝視ポスターで溢れかえるよ

うになっていった。

### 【校内に溢れる美点凝視ポスター】



### 【保護者からのメッセージ掲示】



(このメッセージは、2年生の保護者懇談会において作成していただいたもの。美点凝視の活動がめざした無条件の肯定的ストロークを見事に表現してくださっている)

### 【校則見直しと若中生の一日検討委員会】

また、この美点凝視の活動を続けながら、集会のあり方をそれまでの「教師からの注意や説教の場」といったものから「生徒同士で夢や目的意識、感謝の思いを伝え合う場」というものへと変えていった。さらに、生徒指導部だよりに加えてこの全校集会で生徒同士が主体

的・対話的に学び合った内容や、校内に溢れる美点凝視ポスターの内容を発信するようにしていった。

【生徒指導部だより】



このような中で、生徒会が主体となる活動の幅がさらに広がり、2020年度の末には新年度の新生保護者説明会を生徒会が主催者として実施し、生徒指導に関わる案内は、生徒会と生徒指導主事である筆者のパネルディスカッションという形で行った。海外から日本に来られたある保護者は「これほどまで自分たちの学校に誇りを持って、堂々と自分の思いを語れる生徒が日本にいるとは思わなかった。素晴らしい学校と出会えて嬉しい、ありがとう！」と生徒会のメンバーに握手を求められていた。

この頃からはさらに、生徒主体の学校づくりについて生徒会の中からより活発な提案や議論が生まれるようになっていった。その中で、これまで当たり前とされていた非合理的であったり、曖昧であったりした古い校則を生徒会と教職員とが対話・議論しながら見直すことになっていった。その結果、ジェンダーレスで個別の特性に応じた制服の採用や、自転車通学規定の改正などが進められ、2021年度からは生徒手帳も廃止されることとなった。

また、それ以降も「若中生の一日検討委員会」という生徒が主体となって学校生活を見直す委員会が設置され、学校生活のあり方について「古いものや都合の悪いものは廃止」といった結論ありきの議論になったり、少数の立場や社会的に弱い立場にある人の意見を安易な全体の多数決によって排除したりしないよう、丁寧に粘り強く対話しながら、互いの個性やよさを認め合い、称え合う学校づくりを生徒主体で進めている。

4 成果と課題

年度	自分には良いところがあると思いますか 肯定的割合	問題行動 報告件数
2019	奈良県 71.4% 若草中 68.0%	79 件
2022	奈良県 73.5% 若草中 74.1%	41 件

2019年度と2022年度の全国学力・学習状況調査の結果を比較すると、自分には良いところがあると思いますかという質問項目に肯定的に回答した生徒の割合が6.1pt向上し、奈良県全体の割合よりも高くなった。また、児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題として市教育委員会に報告するできごとの件数は79件から41件へと半減した。よって、仮説は支持された。

一方、これらの成果は筆者の勤務校での生徒指導主事の任期4年間の実践によるもの過ぎず、どのような学校においても同じ成果が得られるとは言い切れない。そのため筆者は、2022年に公認心理師資格を取得した上で、2023年4月から奈良教育大学大学院に現職派遣教員として進学し、より高度で専門的な生徒指導と学校心理学の知見を生かして、奈良県のみならず全国の子どもたちの発達を支持し、子どもの命と尊厳を守る教育に寄与するべく、実践的な研究を進めている。

【生徒会活動のふり返りより（一部引用）】

私が、半年間の活動を通じて学んだことは、美点凝視で他の人の良いところを見つけ、認め合うことです。私は以前、他の人の良いところを見つけにいたりする機会はありませんでした。それに、たとえ良いところを見つけても、なんとなく凄いなと思うだけで、それがどう凄いかまで考えを深めに行くことはありませんでした。ですが、美点凝視を通じて他の人の良いところを積極的に探す機会ができたり、その人の良いところについて深く考え、そのことによって、よりその人の良さがわかったりして、とても良い経験をさせてもらいました。そして、そのことによって、普段私たちが何気なく暮らしている中でも、誰かの助けがあって快適に暮らせているということがわかり、普段からその方々に感謝しようと思いました。これからも、この経験を自分の生活の中に生かしていきたいです。ありがとうございました。